

はじめに

水産業は豊かな自然の恵みを有効に活用する本道を代表する産業のひとつであり、豊かで活力のある北海道を築いていくためには、地域経済や地域づくりの柱となる、体質の強い魅力ある産業として発展することが求められています。また、近年の遊漁やマリレジャーの増加、環境保全意識の高まりなど、道民の皆様と水産業の接点も広がってきております。

水産試験場や水産孵化場は、水産業の基盤部分を技術面から支える縁の下の力持ちの役割で、これまで、それぞれの時代のニーズに合わせて各種の技術開発を行い、漁業や水産加工業などの地域経済に貢献してきました。現在も本道の海や川などの特性にあった魚をふやす技術（種苗生産や養殖などの栽培技術）、海や川、湖で、魚や貝などの水産物を枯渇させることなく、それらを上手に無駄なく活用する技術（資源管理技術）、本道の水産物を利用し新鮮で安全な水産加工品をつくる技術（水産加工技術）など、幅広い分野での調査研究を通じ技術開発を続けており、最近では環境保全に関する調査研究にも取り組んでいます。

この「水産試験研究最新成果集」は普段、道民の皆様がふれる機会が少ない、試験研究の活動内容や成果をより詳しく知っていただくために、平成8年から発行を始めたもので、今回は2冊目となります。

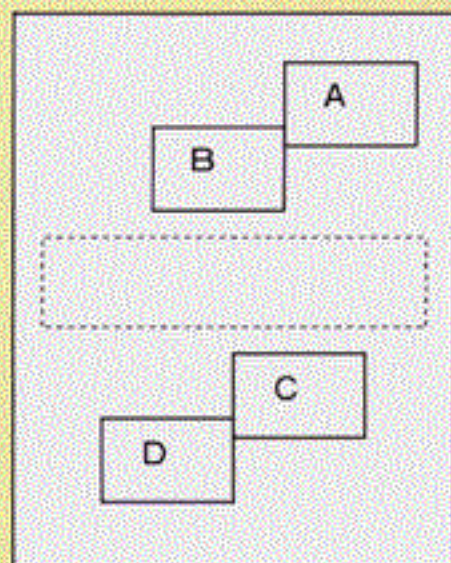
この成果集は、水産試験研究機関の最新の主な仕事の内容を分かりやすくコンパクトにまとめていますので、研究機関に対する理解をより一層深めていただきたいと考えております。

平成10年3月

北海道水産林務部長 中津俊行

この冊子は、

- 一般道民の水産試験研究への理解を促進することを目的に
- 最近5年間（平成4年～8年）での主要な成果をわかりやすく
- 新たな技術開発への展開や発展、そして創造のために



＝ 表紙の説明 ＝

- A：留萌港で漁獲されるニシン
- B：オホーツク海で漁獲された産卵直前のキチジ
- C：磯焼け漁場でのユニフェンス敷設例（日本海松前沖）
- D：アンモシーテス（石狩川カワヤツメの稚魚）